

博物館に手話ガイドを導入した事例

事例の概要

聴覚障害者が、ふじさんミュージアムに対し、展示説明に手話通訳の映像があるが手話の内容が難しく、説明文も長文で読みにくいいため、平易で分かりやすく工夫して欲しいと要望した。

ふじさんミュージアムは、地元聴覚障害者団体やろう者に具体的な改善点を聞きながら検討した結果、手話通訳の映像を修正せず、手話ガイドを設置することとした。

手話ガイドには、ふじさんミュージアムの学芸員による10ヶ月間の学習会を受講し、ふじさんミュージアムが認定したろう者2名を配置した。現在の手話ガイドは、ボランティアであるが、将来的にはガイドの数を増やすことや有償ガイドとすることも考えている。

行政評価事務所の対応で視覚障害者誘導用ブロックが補修された事例

事例の概要

歩道上に設置された複数の視覚障害者誘導用ブロックが剥がれ、視覚障害者の通行に支障が出ている。過去には、マンホール蓋上のブロックの向きがズレていたこともあり、視覚障害者誘導用ブロックに対する認識が足りないのではないかとの相談が行政評価事務所に寄せられた。

行政評価事務所と行政相談委員が現地を確認した結果、補修や関係者への周知等が必要と判断し、道路管理者に状況を連絡した。

道路管理者は、現地確認後、視覚障害者誘導用ブロックを補修するとともに、マンホールの管理者等の連絡会議において、マンホール蓋の適切な管理を行うよう周知・指導することとなった。